

平成22年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」及び「和して同ぜず」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むとともに、主体的、創造的に生きる力を培い、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 活力ある学校づくりを推進し、豊かな人間性と人権尊重の精神の育成に努める。</li> <li>2 基礎・基本の定着を図り、主体的、創造的に生きる力を育成し、学力の伸長と進路実現に結びつける</li> <li>3 保護者・地域との連携を深め、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>4 教育の専門家としての資質と指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。</li> </ol>

3 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・特になし。
--------

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の成果が現れてきていると言える。今後も継続し、成果がさらに大きなものとなることを期待したい。</li> <li>・生徒・保護者・教員の共通理解を図る取組をさらに充実させる必要である。</li> </ul>
--

2 学校自己評価結果（☆昨年度より改善された項目 ★来年度への課題）

分野	評価項目（来年度の課題となる項目を中心）	評価	学校の取り組み状況・改善の方策
生徒指導	☆明確な生徒指導基準の設定及び生徒・保護者・教職員間でその共有・実践を図る。	B	協働体制の構築を図り、一枚岩の指導を実現していく。
	☆ルール(服装・頭髪)・マナー(通学マナー)を遵守させ、規範意識を育てる。		別室指導は確立し、着こなし・通学マナーは向上した。
	外部講師等の活用により、情報モラルなど社会の変化に対応した指導を行う。		生徒のブログに関する内容などについても指導が必要である。
	☆キャンパスカウンセラーによる研修を実施する。また、生徒・保護者に対して、心の教育を充実させる。		PTAの支援によりカウンセリングの回数を維持でき、支援の充実を図れた。
	★規則正しい生活のリズムを整えさせ、心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を培う。		遅刻の減少に結びつく具体的・有効な指導法を開発する。
生徒会を活性化させ、生徒中心による学校行事等の運営を図り、自主・自立の精神を育む。	生徒会組織は充実したので、見える活動を展開する。		
部活動を活性化し、調和のとれた人格を育成する。	部活動紹介などに工夫を加え、加入率・定着率をさらに増やす。		
進路指導	進路指導部と学年が連携し、進学・就職に関する有効な情報を共有し、生徒・保護者に提供する。	B	進路部会を定例化し、上級学年の取組を継承発展できるようにする。
	ホームルームや総合的な学習の時間を利用して、主体的に進路選択ができる能力を育成する。		総合学習や進路別学習会が生徒の進路実現に効果をあげている。
	外部講師による進路講演会の活用やオープンキャンパス等への参加を促し、進路意識を高める。		オープンキャンパス等への参加を義務づけ、進路意識の高揚を図れた。
	進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。		学年主導から、進路部主導の組織的な指導へと移行すべきである。
学習指導	★教員が研究授業や授業アンケート等を活用して、指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。	B	教育課程の見直しを図る。研究授業の充実を図る。
	少人数授業や習熟度別授業、補習や補充などを実施して基礎学力の定着を図る。		少人数指導や習熟度別指導のあり方の研究・研修を重ねる。
	ボランティア実践やふれあい育児体験など、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。		地域との連携も含め、体験的な学習の拡充を行う。
	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、学び続ける意欲と態度を育成する。		検定への興味・関心、意欲を育てる工夫と指導体制の確立が必要である。
	芸術鑑賞会など芸術文化に関する行事を開催し、感性豊かな心を育成する。		さらに内容を吟味し、事前指導の充実を図る。
学校運営全般	★進路・生徒指導・人権など学校の諸課題に関する教員の研修会を実施し、指導力の向上を図る。	B	計画的にタイムリーな研修を企画する。
	他校への学校訪問で得た有効な情報を研修会で共有し、教員の資質及び指導力の向上を図る。		情報の共有化や実践的なフィードバックを行うべきである。
	★危機管理マニュアルを作成し、実践的に対応できるように訓練など防災・安全教育の充実を図る。		危機管理に対する校内組織や役割分担をさらに明確にすべきである。
	★各部や各学年の連携による協働体制を構築する。		情報交換など協働体制は改善されたが、まだ不十分である。
役割分担の明確化、適正な人員配置など機能的に組織化し、学校の活性化を図る。	学校評価システムを活用し、成果の継承発展と課題の改善を図る。		
保護者・地域との連携	PTA総会、学校ホームページ、学年通信などを通じて、学校の情報を積極的に保護者に発信する。	B	HPの充実を図るとともに「夢通信」配布の効果を検証する。
	授業公開、オープンハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。		求める生徒像の明確化が必要である。模擬授業等の工夫ができた。
	学校評議員会の意見や学校関係者評価を受け、それを公表し学校運営の改善を図る。		指摘された課題を共有し、個人的・組織的に解決に向けた目標を設定する。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の成果が、生徒の服装や行動に現れてきているので、継続することが望まれる。</li> <li>・生徒・保護者・教員が、自転車通学生の危険性を実感・共有できる取組を展開する必要がある。</li> <li>・部活動の教育効果を活かすために、部員の増加や活動の活性化に結びつく取組の開発が必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導の回数を増やしたり内容を充実させたりすることで、就職内定率を高めたことは、進路指導の成果として評価できる。</li> <li>・画一的な価値観によらず、個人の能力を引き出す工夫も必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで挨拶ができるようにすることで自信や意欲を引き出し、それを学習意欲に結びつけるなどの具体的な活動を創出し、全校挙げて取り組む。</li> </ul>
・特になし。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を訪れることがない地域住民にとって、「夢通信」は学校理解のため効果を発揮しているので今後も継続してほしい。</li> </ul>